

# まちづくり物語

市民活動センターと相談に訪れた方々が協力して  
成し得たまちづくりの物語をご紹介します。

## Vol.6 森で遊ぼう会

### 「みんなで遊べる森を探して」

小瀬の長良川河畔にある「小瀬げんき村」で、月に一度、親子で遊ぶ活動をしているのが「森で遊ぼう会」さんです。森を散策したり、手作りのブランコやシーソー・ハンモックで遊んだり、火を起こし、薪でご飯を炊いたり、まきまきパンを焼いたり、しいたけの菌打ち体験など昨年の10月から毎月、様々な里山遊びをしています。

「関市内の森や里山で遊べるような場所を探しています」。代表の小澤美和さんが、当センターに相談に来られたのは、昨年10月19日のこと。美濃市の森林アカデミーが開催するプレーパーク（子どもたちの野外での自由な遊び場）に行き、「こんな場所が関にも作りたい。」と思ったのがきっかけとなり「こういう活動をするときにはどうすればよいのか」といった相談内容でした。その時に小澤さんにご紹介した「小瀬げんき村」は、関市とNPO法人スリーハンドさんが運営しており、以前関ライオンズクラブさんが記念事業の資金的援助先を探している際に当センターがご紹介したという経緯があります。小澤さんは相

談に来られた次の日には早速げんき村を訪問。土地の所有者でもある尾崎さんとお会いし、森の使用を快諾していただいたそうです。そして次の週、10月27日に、第1回森で遊ぼう会が開催されることとなりました。「まず私や子どもたちの友人を誘い『森で遊んでみる』ことから始めました。」集まった子どもたちは、初めての森に大喜び。駆け回り、小川に入り、ブランコやシーソーで遊び、虫を捕まえ、用意したのこぎりで竹笛作りにも挑戦したとのこと。「こういう活動ができるのも、森の手入れをして下さるボランティアさんがいてこそ」と小澤さんは話します。「森に行くと知らないことばかり。火の着け方、薪でのご飯の炊き方、森での遊び方、木や花の名前。いろいろなことを教えていただいています。今はまだ始まったばかりの活動ですが、将来的には三世代で森を楽しむことができる場にしてきたい。その時はまた市民活動センターさんに相談しに来ますね」。



●問合せ先  
森で遊ぼう会  
活動の様子はブログ  
「森で遊ぼう会@関」  
で随時UPされています。  
お問い合わせは下記アドレスまで  
morideasobokai@yahoo.co.jp

## 動き出す ソーシャルサロン 関のジン



サロンの仲間と。右が太田さん

### 「様々な立場の人が集まって 考えて行ける場をつくりたい」

この活動を語るのには簡単ではない。「理屈をこねくり回していないで、まず行動を」という叱責を受けることもあったという。

もちろん、社会貢献は視野に入れている。たくさん情報がある時代だからこそ、事前に調べたりすることで、回り

道を回避できるのではないかと。行動する前に「これで一体何が解決できるのか」を考えることもできるのではないかと。それを一人ではなく、同じ地域で生きている人たちと一緒に考えたい。そういうオープンな場が無いのなら、自分で作ろう——。このような経緯を経て、太田さんが昨年夏に立ち上げたのがソーシャルサロンである。

月に一度のサロンが主な活動で、1つのテーマについて議論する。これまでに扱ったテーマは「いじめ」「領土問題」「環境問題」など。当日は参加者が資料を持ち寄り、議論する。勝ち負けではない。固定概念に気付き、目線を変え、そのテーマの答えを見つけ出す。参加人数は決して多くはないが、みな熱心で、終わる頃には満足した表情を見せてくれるという。参加者より若い太田さんには色々と言苦労もあるようだが、「やりがいがあります」と清々しく語る。

この活動を潤滑に進めていくために、市民活動センターへ相談に訪れたり、地域応援若者支援ファンドへ申請したりと、意欲的に動いている。「様々な視点から捉えるためにも、様々な立場の人に参加してもらいたい」との願いから、サロンの告知をチラシかソーシャルメディアで精力的に続けていくほか、年間計画や議事録をウェブで順次公開していきたいと話す。

●興味のある方はこちらへ  
ソーシャルサロン 太田陽大  
Email: windclimbing98@gmail.com